

1. 研究テーマ

特別養護老人ホームにおけるケアプランと記録作成・活用のための調査研究

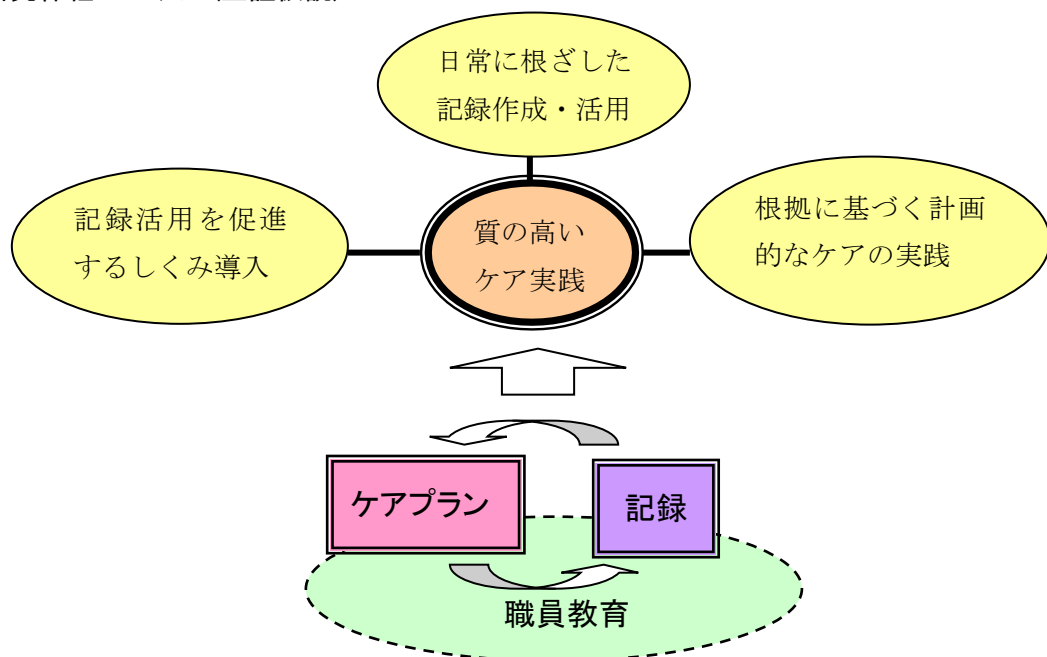
2. 趣旨

特別養護老人ホーム(以下特養)では、介護保険制度創設以来、ケアプランに基づいた計画的なケアの実践が展開されてきた。とりわけ、施設ケアマネジャーの設置が義務付けられてからは、アセスメント⇒ケアプラン立案⇒ケアの実施⇒モニタリングというサイクルが定着する一方で、「ケアプラン作成の時間が確保できない」「ケアプランの内容がすべての職員に十分理解されていない」「ケアプランが形式的になってしまい、日々の介護にいかされていない」などの問題点も指摘されている。

特定非営利活動法人Uビジョン研究所では、厚生労働省の平成18年度老人保健事業推進費等補助金を受け、「特別養護老人ホームにおける介護記録等のシステム化推進事業」を実施し、利用者の個別状況に基づくケアの実践のための記録システムを開発した。同時に、こうしたシステムを本格的に運用していくためには、職員教育の実施と日々のケアに記録を活用することの検証が不可欠であること明らかにし、そのための実証的研究の必要性を提言してきたところである。

これらの実績を踏まえ、今回は、特養で今日求められている多職種協働によるチームケアの実践、利用者・家族等への情報提供と意向確認、認知症・ターミナルケアなどより専門的な支援を必要とする人々へのケアなども念頭に置き、真に科学的根拠(エビデンス)に基づいたケアを実現していくためのケアプラン策定と記録の作成・活用のための実証研究を行う。

研究枠組のモデル(立証仮説)



3. 研究内容のアウトライン

(1) 委員会の設置・協議

学識経験者・介護現場経験者等から構成される委員会を設置し、研究全体の方向性を定め、必要な協議・提言等を行う。

(2) モデル事業の実施

立案したケアプランとその実践である日常のケア記録が連動しやすい仕組みを考案し、モデル施設における導入前後の効果測定を行う。具体的な効果の指標は、①ケアプラン策定→実施→評価のサイクルに記録がどのように活用できるのか②記録作成・活用の教育が、どの程度効果をあげているのか③プラン・記録がどの程度効果的なケアに寄与したのかの検証等である。

(3) システム改善の履行

モデル事業の結果を受けて、18年度厚労省補助金により作成した記録システムに必要なプログラム改定等を加え、実践の場でより活用しやすいシステムにするための改善を行う。

(1)～(3)を通じて、生活の場である特養における‘科学的な根拠’の内実を問い返し、それを支えるツールとしての記録システムの必要性と実証的効果を明らかにする。

4. 年間計画

時 期	内 容
4 月	研究事業の枠組確定
5 月～6 月	予備調査(モデル施設におけるケアプラン作成と記録に関する現状把握)
6 月	第 1 回委員会(全体の調査設計・モデル事業の内容精査)
7 月	第 2 回委員会(モデル事業の詳細設計及び追加調査等の検討)
8 月～10 月	モデル施設調査(モデル施設におけるケアプラン・記録の記入活用状況と比較検討)
11 月	第 3 回委員会(モデル事業の分析・評価)
12 月	第 4 回委員会(モデル事業の分析・評価・項目等の必要な修正)
1 月	第 5 回委員会(報告書作成原案の検討)
2 月	システム改修
3 月	第 6 回委員会 研究報告書上梓

5. 委員構成等(案)

敬称略・順不同

No.	氏 名	所 属
1	村 井 祐 一	田園調布学園大学人間福祉学部地域福祉学科
2		社会福祉援助技術関係学識経験者等
3		施設ケアマネジャー等
4	本 間 郁 子	Uビジョン研究所理事長・特養ホームを良くする市民の会理事長
5	高 橋 好 美	Uビジョン研究所特別研究員・社会福祉士

※必要に応じて臨時委員・オブザーバー等を置く

モデル事業実施施設候補

特別養護老人ホームゆとりえ(武蔵野市：従来型・定員 30 名)

特別養護老人ホーム釧路北園啓生園(釧路市：新型特養・定員 90 名)

特別養護老人ホーム花みづき寮(高崎市：新型特養・定員 50 名)